

ベイシアスーパーセンター真岡店 VS ザ・ビックエクストラ真岡店

城取フードサービス研究所

城取 博幸

ベイシアスーパーセンター真岡店

変わるベイシア 「コモディティ」に「良いもの」をプラスする

ベイシアのモットーは、「「Everyday Same Low Price」「良いものをより安く」提供し、お客様の豊かな暮らしづくりをサポートします。」です。多くの企業でも「良いものをより安く」というモットーを掲げていますが、実際に売場を見ると、本当にそのモットーが売場で具現化されているか、お客様がそれを理解しているのか疑問である。ベイシアは「コモディティ型」のスーパーセンターの業態ですが、「コモディティ」に「良いもの」をどう組み合わせているか、生鮮食品、惣菜を中心に、客の虫の目で売場、商品を検証してみた。また、競合店の「買えば買うほど安さがわかります」がモットーで、迎え撃つ「ザ・ビックエクストラ」はどう戦っているかも検証してみた。

旬の「りんご」の低価格販売と、「とまと売場」のラインロビング

ニュース・リリースで公表されている、「生鮮食品の特徴は、青果、くだもの売場では、日々の生活に密着した使用頻度の高い野菜や旬の果物を低価格で販売します。特に、旬のりんごを産地より直送し、大玉サイズを低価格で販売、需要の高いとまとや簡便野菜を豊富に品揃えします。」と書かれています。

実際売場で検証してみると、店舗の入口付近でりんご2種類を68円でバラ販売。粒も揃っていて鮮度もよかった。「秋映（あきばえ）」を購入して試食してみたが、身もしっかりしていてジューシーでおいしかった。とまとは言葉通り、入口を入ったトップの多段ケースに16アイテムもの品揃え。「コモディティ型」の店舗ではアイテムを絞り込んで低価格で販売するのが普通だが、逆にとまとはアイテムを拡大しラインロビングを行っているのに驚かされた。

ケース上段のバラ販売のとまと98円を購入して試食してみたが、色、形ともよく甘味のあるとまとであった。さらにベイシアの特徴は、「冷凍野菜」が青果売場に配置していることだ、煮物シーズンであるため「ささがきごぼう」などが良く動いていた。青果、くだもの売場では、2品しか購入していないが、「良いものをより安く」のモットーは貫かれている感想を持った。



ベイシア 秋映 68円



とまと 98円

精肉売場は「黒毛和牛」を低価格で提供

精肉売場では、「バイヤーが厳選した黒毛和牛をお求めやすい価格で提供します」（ニュースリリース）ベイシアのレイアウトは、青果、くだもの続き精肉、鮮魚と続くのが特徴だ。

突き当りの第2マグネットが「黒毛和牛」売場だ。ステーキを中心に平ケースで12尺ほどで「黒毛和牛」を展開している。牛肉は、10月は「焼肉」から「鍋」へと切り代わる難しいシーズンで、ステーキは若干苦戦しているように見えた。それでも、12アイテムを品揃えしている。

広告の「栃木県産黒毛和牛切り落とし」100g 278円 828円のパックを購入し、サッとあぶって塩で試食してみたが、甘味のある脂身と赤身との味のバランスがよくおいしかった。精肉売場では「冷凍肉」のリーチインケースは設置されていない。

精肉売場でも、「良いものをより安く」のモットーは貫かれている感想を持った。



ベイシア 栃木県産黒毛和牛 特売 100g 278円

「固体識別番号」も記載されている。「全頭検査済み」とシールが貼られているが何を検査したかよく分からない。

鮮魚売場は「本まぐろ（ばち）」「みなみまぐろ中トロ」を低価格で提供

「魚屋では、築地を中心に茨城、神奈川、新潟市場より日々鮮度の良い生魚を提供致します」（ニュースリリース）。精肉売場を過ぎた鮮魚売場の冷蔵平ケースのトップでは、「本まぐろ（ばち）」その隣に「みなみまぐろ中トロ」を販売。「本まぐろ」は、サク切り1枚、2枚入り、サイコロ、お造り、平切り、切り落としの6SKUを品揃えしている。その隣の平ケースでは、みなみまぐろの中トロを販売している。少し気になるのは、まぐろ売場とお造り盛り合わせのコーナーが離れているため、お造り盛り合わせコーナーが少し狭い印象を持った。鮮魚売場には「冷凍魚」のリーチンケースが設置されていて、電子レンジでできる煮魚や調理済みの煮魚などの「レディ・ミール」の品揃えも豊富であった。

「本ばちまぐろ サク」（100g 338円 479円）を購入し試食してみた。鮮度もよく脂がのっていて旨みのあるまぐろであった。確かに価格も安い。



ベシア 韓国産太平洋刺身用 大ばちまぐろ 100g 338円

寿司売場では鮮魚のまぐろを使用した生寿司を低価格で提供

「お魚屋さんの寿司コーナーでは、本まぐろやみなみまぐろ中トロを使用した生寿司を9貫498円とお求めやすい価格で販売致します」（ニュースリリース）。寿司売場は、鮮魚売場の続きの冷蔵平ケースで展開。鮮魚の「本まぐろ（ばち）」と「みなみまぐろ中トロ」を自店でカットして使用しているのが特徴。若干ネタのカットや盛り付けにムラはあるものの魅力のある生寿司である。中トロ、ばちまぐろ、中トロ軍艦、カンパチなどの生ネタを使用して、9貫498円は魅力である。その他のにぎり寿司の品揃えは、うに、いくらに入った11貫680円、冷凍ネタが中心の15貫680円も魅力だ。

ベシラスーパーマーケット国済寺店で購入した498円の生寿司は試食した者全員の評価が高かった。また、「厚切りとんかつ 248円」を使った「カツ丼 298円」はバラ販売で売られている「ロースとんかつ」を使ったカツ丼。米飯のナンバーワン商品。厚切りの割にはなぜか肉が柔らかい。



ベイシア 厚切り豚ロースカツ丼（国産米） 298円

日配部門は地元商品も品揃えと冷凍食品売場を拡大

土地柄から餃子をよく食べる地域。「宇都宮肉餃子 18粒 268円」などの少し高額品も扱っている。豚肉、豚脂、ニンニク、生姜、ニラの味がきいた本格的な味だ。冷凍食品はリーチインケースと冷凍平ケースを多用している。冷凍食品のリーチインケースの扉の枚数は33枚、アイスクリームは10枚、その他、冷凍野菜が3枚、鮮魚5枚と、今後成長が望める冷凍食品売場の拡大を図っている。



マルシンフーズ 宇都宮肉餃子 268円

堂々と迎え撃つザ・ビッグエクストラ真岡店

ベイシアの競合店「ザ・ビッグエクストラ」も「コモディティ型」のスーパーセンター。「買えば買うほど安さがわかります」がモットー。ベイシアの「良いものをより安く」に対してどう迎撃しているか見てみた。客の数はベイシアに負けない程よく入っている。ザ・ビッグの狙いと、ベイシアが力を入れている商品と同じ物を購入して価値、価格の比較を行ってみた。

「秋映りんご」はベイシアよりサイズが大きかった。

在庫状況や時間によって条件は違うと思いますが、私たちが一番大きいサイズの秋映を購入した時点では、秋映のサイズはザ・ビッグ（77円）の方が大きかった。しかし、サイズには若干バラつきがあるため、在庫状況によってはベイシア（68円）よりも小さいものになってしまうこともある。両店の秋映の味の比較は、客の好みは分かれる。硬くてジューシーなりんごを好む客と、少し柔らかく食べやすいりんごを好む客もいる。この評価はお客に任せたい。

「とまと」のサイズもザ・ビッグの方が大きかった。

ザ・ビッグはとまとのアイテムを絞り込んで3アイテム品揃え。最下段でとまとをバラ販売していた。条件は同じで中でも最も大きめな物を選んだ。とまともベイシア（98円）に対してザ・ビッグ（97円）の方が大きかった。しかし、とまともサイズにバラツキが若干ある。味の比較は、選んだ物だけに限れば、ベイシアのとまとの方が、少し甘味がたち、ザ・ビッグの方が若干酸味がたっているように感じた。これも、客の好みの問題で全体としては大差なかった。これも評価はお客に任せたい。



ザ・プライス秋映りんご 左

ザ・プライス とまと 左

全頭放射能精密検査済み 国産黒毛和牛

「全頭精密検査済み」の下に放射能物質を精密検査していると表記し安全性をアピール。「生産履歴番号」も記載されている。ベイシアがマグネット売場の平ケースで力を入れて展開しているのに対し、ザ・ビッグは多段ケースの中段に黒毛和牛を品揃えしていた。

購入して塩焼きで試食してみたが、牛肉の赤身のうまさがよく出ていた。牛肉独特の臭いもなくおいしかった。



ザ・ビッグ 国産黒毛和牛切り落とし 100g 337円

「全頭 精密検査済み」1頭1頭放射能精密検査済み。

「びんちょうまぐろ サク」を低価格で販売

ザ・ビッグの第2マグネットの鮮魚冷蔵平ケースに、「びんちょうまぐろ サク」がフェイスを拡大して陳列されていた。ベシアの「ばちまぐろ」に対し、ザ・ビッグは低価格の「びんちょうまぐろ」で対抗。価格はベシアの半額以下。「価値と価格のバランス」でお客様が選ぶこと。まぐろステーキで試食したが、生臭くなくおいしく食べられた。



太平洋海域（日本海）びんちょうまぐろ（冷凍）刺身用 100g 127円

ベシアの価格の下をくぐるカツ丼

カツ丼は米飯の中でナンバーワンの売上を誇る商品。昼時であったため平台に大量に陳列されていた。価格はベシアより1円安い。「チルドの豚ロースかつ」を使用（推測）しているようであるため、豚肉本来の食感と味が生きている。卵、タレとのバランスも良かった。



カツ重 297円

「生餃子」を売り込むザ・ビック

生餃子は PB 商品 67円と NB 商品をよく売りこんでいる。トップバリュの生餃子は10粒 67円という破格値。冷蔵平ケースには NB の生餃子が大陳されていた。

イオングループは誇る冷凍食品売場は、多段ケースと平ケースで展開。PB の「レディ・ミール」の新商品も導入されて魅力ある品揃えとなっている。ただ、87円、97円、137円、148円、157円、197円と200円以下の価格の「プライスレンジ」が細かすぎることが気になる。



トップバリュ 生餃子 10粒入り 67円

商品構成グラフの右側にシフトするベイシア、左側にシフトするザ・ビック

「ベイシアスーパーセンター真岡店」も「ザ・ビックエクストラ真岡店」も同じくらいよく客が入っている。台風の前に日であるせいか売場は混雑している。「どちらが勝って」「どちらが負けている」という状況ではない。客数がそれを物語っている。店の感想は、ベイシアは低価格品だけにシフトせず、高品質品を安く売り「平均単価のアップ」を狙っているように見える。それに対してザ・ビックは、2桁価格を中心の品揃えで「買上点数のアップ」を狙う戦略であるように思えた。真っ向勝負を避けた戦いだ。どちらを選ぶかは客が決めること。ただ一つ言えることは、どういった戦略であろうと「お客様との約束を守る」「お客様の期待を裏切らない」店が生き残るのではないのでしょうか。